

守りたい、故郷の自然と緑

3
み
4
よ
4
し
S A T O Y A M A

自然と緑が豊かな三芳町。
この町の林のほとんどは江戸時代に人工的に作られたもの。
先人が切り拓き残された「ヤマ」。そして「サト」。
今年最後の広報みよしの特集はS A T O Y A M A。
トカイナカ三芳町の魅力に迫ります。



写真：緑地公園の新緑（4月撮影）

ヤ

マ。平地林や雑木林のことを三芳の農家の皆さんはこう呼びます。高低差がある「山(mountain)」という意味ではありません。語源的には「ヤ」は「大きい」、「マ」は「恵み」とされています。

今も三芳町に残る平地林は、江戸時代に畑作新田が開拓された以降に形成されたもの。地下水位が低く火山灰土で覆われ、栄養分や水が少ない荒野であったと言われています。

循環型農法

その荒野に作物を作るため江戸時代、人工的に木を植え林を作り、地下水をくみ上げました。さらに枯れた落ち葉を堆肥にし、畑の肥料として活用。これが三富新田の循環型農法です。まさに「ヤマ(平地林)」が大きな恵みと富を人々にもたらしてくれたのです。

大きな恵み、里山

一方、「人が住むところ」「田舎」「ふるさと」などのことをこう呼びます。「里」――。

先人が切り拓いたこの地に多くの人が住み「里」を形成しました。三芳町の里山は先人たちの大きな恵みによって誕生したのです。

自然と緑を守る

私たちの生活に密接、共生している里山。しかし町の緑地は町の10%程度まで減り、新しく三芳町で暮らす住民が町や緑への関心が薄いことなども課題とされています。

今年7月16日に藤久保の平地林が埼玉県の緑のトラスト保全第14号地に決定。寄附を募り、埼玉の優れた自然や貴重な歴史的環境を財産として保全しようという運動が今、始まっています。今月の特集はS A T O Y A M A。先人が切り拓いた「ヤマ」を守る人、ふるさとを愛する人、未来を創る子どもたちの視点から、私たちができることを考えてみませんか。

日本の里100選



「景観」「生物多様性」「人の営み」を基準に審査される『にほんの里100選』に三富新田が選ばれています。